

# こども通信

平成という時代が少しずつ終わりに近づいています。あと3か月ほど。

日々の生活には何も変化がないはずなのですが、どこか心の中にすきま風が通り過ぎるように感じませんか？（風邪気味なのかな・・・）

厳しい季節です。インフルエンザも大流行中。体調に気をつけてお過ごし下さい。

\* \*

世界でもっとも有名な日本人アスリートはテニス選手なのだそうです。世界中を転戦しているので、自然と覚えらるのだとか。

これまでは錦織圭が最も知られていました。そこに大坂なおみが加わったことは明らかでしょう。

昨年の全米オープン優勝に続き、このたび全豪オープンでも優勝。そして世界ランク1位に！



これまでの日本テニス界には想像もできないような快挙です。

まだ若く、おそらくこれからもっとと進歩し、強くなり、勝ち続けるのでは。全仏、ウィンブルドンも優勝してグランドスラムを達成するのも遠くはないでしょう。夢は広がっていきます。

大坂なおみはただ強いだけではありません。愛されるキャラです。

試合前後の振る舞いも、発する言葉もとても自然体。そしてキュート。試合の中でも相手に対する敬意を持ちながら、全力で戦っています。

時々ミスをした時などに悪い感情がでてしまいます。自分で「3歳児」のようだと言っていました。試合を通して成長し、4歳児になり、全豪オープンの後には5歳児になったのだとか。

## 塚田こども医院

小児科・アレルギー科  
上越市栄町 2-2-25  
TEL 025-544-7777(代)  
025-544-7779(保育室)  
FAX 025-544-8456  
各種ネット予約  
www.0255447777.com/j  
ホームページ  
www.kodomo-iin.com

## 感染症情報

インフルエンザが大きな流行になっています。1月中旬に新潟県全体に「警報」が発令され、上越地域もその後警報レベルの発生数になっています。これまでは例年と同様にA型の流行です。今後はB型の流行が加わってくることも予想されます（春先に流行することが多いです）。引き続き、十分に注意してして下さい。手洗いをこまめにおこない、人混みへの不要不急の外出は避けましょう。もしインフルエンザらしい症状がある場合はマスクを着用して他の人にうつさないように注意を。もしぐったりしている時には早く受診して下さい。

りんご病（伝染性紅斑）の流行もおきています。子どもにとっては頬や腕などが赤くなるだけの軽い感染症ですが、大人の方がかかると発熱や強い関節痛がおきます。また妊娠中の女性が罹患すると流産するおそれがあります。注意して下さい。

感染性胃腸炎の発生が増加しています。日頃からの手洗いやうがいの習慣づけは大切です。

溶連菌感染症やアデノウイルス性咽頭炎も目立ちます。

気管支炎などを起こし、咳が強くなるRSウイルス感染症、マイコプラズマ感染症なども発生があります。

風疹が首都圏などで流行しています。免疫を持たない成人男性の中で発生しがちです。必要な方はワクチン接種をお勧めします。

麻疹の発生は当地ではありませんでした。

自分が悪いところを直し、良いところをもっと伸ばしていく。そんな成長して行く様子が垣間見えるのも、彼女を応援しなくなる理由なのでしょう。

## 今月の予定

### 院長出務

上越市乳幼児健診 6日  
上越市名立区乳幼児健診 13日  
上越市夜間診療所勤務 20日  
上越市休日診療所勤務 24日  
上越有線放送 「健康ライフ」 19日  
FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」  
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

### 感染症情報（毎週）

FM上越：木曜午後1:35頃～  
上越有線放送：月曜午後6時～（番組内）

## インフルエンザ

## 異常行動などに注意

やはり今シーズンもインフルエンザが大きな流行になりました。例年以上の猛威になっています。

かからないよう、またかかっても軽くすむように。そして他の人につさないように注意していただきます。

熱が出てぐったりするのは普通の症状。通常の治療を行いながら、ゆっくり休んで下さい。

でも、時に重大な事態が生じることもあります。今回はそのことについてお話しします。

## ●脳症の危険性

日本では毎年数百人がインフルエンザによる脳症を起こしていると言われています。この頻度は他の国に比べて高いと言われています。

インフルエンザに罹患すると体内にサイトカインという炎症物質が作られます。これが発熱、寒気、だるさなどの全身症状を起こします。

また大量のサイトカインが脳

管を傷害し、脳浮腫をおこすことが

あります（「サイトカインの嵐」と言われています）。これがインフルエンザ脳症です（ウイルスが直接障害を起こしているわけではありません）。

脳症になるとけいれん、意識障害、異常行動などを起こしますが、それらが短時間で急激に進行するのも特徴です。

インフルエンザでは異常行動はよく見かけますが、短時間ですみ、その後普通の意識状態であれば、脳症を心配することはないでしょう。

また熱性けいれんを起こすこともあります。やはり短時間でおさまれば脳症ではないでしょう。

脳症の発症が多いことが問題になりましたが、治療法が進歩し、死亡率は下がってきています。後遺症なく治るようにもなってきました。

しかし、やはり重篤な合併症です。お子さんの様子をよく見て下さい。心配なことがありましたら、早急に小児科医を受診するようにして下さい。

## ●異常行動はよく起きます

子どもが発熱すると睡眠中によく異常行動を起こします。うわごとを言ったり、急に泣いたり怒り出した。時には歩き出すこともあります。

インフルエンザ以外でも、発熱時にはよく見られる症状です。通常は興奮を抑えたり、なだめているとまた眠ってくれるでしょう。翌朝、普通に起きてくれるでしょう。本人は覚えていないはず。

インフルエンザはより高熱になる

ので、頻度がさらに多いようです。時に家の外に飛び出していくこともありますので、カギをかける、大人と一緒に付いている、などの対策をお願いします。

なお、タミフル（オセルタミビル）はとくに悪化させるわけではないので、投薬制限は解除されています。

## 経験的漢方論 (2)

## 漢方との出会い（五苓散）

漢方とは一線を画していた私ですが（実は食わず嫌い）、ある出来事から立ち位置ががらりと変わりました。

開業医になって数年した頃のこと。夜、突然腹痛に襲われました。それも激痛。常備してある市販薬や、ブスコパンという腹痛止めを飲んでも一向に良くなりません。吐き気もあり、トイレから動くことができないほど。救急車を呼んで病院に向かうべきかも・・・

そう考え始めていた時に、製薬会社からサンプルでもらった漢方薬がカバンの中に入っていることを思い出しました。それを飲んだところ、5分ほどで腹痛が和らぎ、ベッドで休むことができました。それが「五苓散」という漢方薬。

翌日に病院に受診したところ、カンピロバクタ腸炎だと診断され、治療薬（西洋薬）をもらって、完全に治りました。

この時の強烈な実体験が、漢方に対する興味をいなく大きなきっかけになりました。西洋薬では対処できないのに、漢方薬がいとも簡単に症状を取り去ってくれました。命を救われたような気持ちになったものです。

漢方は長く飲んで体質をゆっくり変えていくものというイメージがあるかと思いますが。そんな漢方もあるのですが、私の体験のように、その場の症状を直ぐに抑える速攻効果があるものも多数あります。急性期の治療の中でも大いに使える・・・それも漢方薬の魅力なんです。

この「五苓散」は私の診療の中で、おそらく最も多用している漢方です。腹痛などの消化器症状意外にもいろいろな効果があります。そのことは次回で。